

# 城山会報

## 第 54 号

同窓会事務所  
 〒811-4192 福岡県宗像市赤間文教町 1 - 1  
 福岡教育大学同窓会 城山会事務局  
 TEL / FAX 0940-33-2211  
 HP <http://katumi.server-shared.com/>  
 発行者 会長 太田 勝視  
 発行日 令和 6 年 2 月 29 日  
 印刷所 松古堂印刷株式会社



<上段>福岡教育大学 (うきうき Teacher! ~小・中学生のための教師体験、ルーチエ食堂) <下段>附属小倉中学校 (体育会・対面式)

### 目次

会長あいさつ	2
学長あいさつ・定期総会報告	3
夏期研修会、城山同窓の集い、附属学校の取り組み	4
支会・支部の取り組み	5
大学・新卒・若手交流会、青年部研修会、教師をめざして	6
わたしの教育実践	7
大学時代の思い出	8
第二の人生を生き生きと	9
教員採用試験の状況	10
令和 5 年度役員組織、事業実績	11
城山文藝、編集後記	12

# 優しさ・温もりのある城山会に！

## 母校創基 150 周年 学び・引継ぎ・更なる前進を

会長 太田 勝視



令和2～5年春まで猛威をふるった新型コロナウイルス感染症も、安心はできませんがほぼ終息の状況へ向かっていると思われています。そのような中、通常の形での総会・懇親会を、今年度は4月29日八仙閣博多で4年ぶりに開催出来ました。この3年間は新型コロナウイルス感染症の影響で十分な活動が出来

なかっただけに、みんなで元気に集うことができたことを喜び合い、城山会ならではの温かさを感じ、今後の城山会活動への思いを新たにしました。

総会では、本年度を城山会活動再活性化への新たなスタートとして位置づけました。本部、支部、支会一体となって、今までの取り組みを確実に前へ進めていくこと、特に若手会員の成長が同窓会の最も重要な課題であることから、今後は青年部組織の確立及び青年部主体の事業推進の取り組みに力を入れる等の協議を深めました。

総会以降の本部事業は、コロナ禍以前の同窓会活動の回復を期して、年間計画に則り予定通り進めてきたところです。2年間延期をしていた新年の会につきましては、名称を「城山同窓の集い」と改称して10月29日に実施しました。はじめての「城山同窓の集い」については、急遽実施を決定し短期間での取り組みではありましたが、担当地区とりわけ実行委員会、田川市・田川郡支会のご努力で241名の参加を得て、盛会に実施できたことは素晴らしいこととあります。青年部は12月2日に母校アカデミックホールで研修会を実施しました。各支会への周知徹底、参加者数、大学との連携等の課題は残しまし

たが、研修会実施への青年部の意欲、思いは強く、今後に繋いでいきたいものです。支部支会総会については5支部27支会の実施があり、研修会実施も5支会ありました。特に研修会実施の支会では、若い人の参加が増え、城山会への期待を感じました。再活性化をめざす中で、このような取り組みは、城山会全体に活気を与えることだと本部として心強く思います。また、「城山会会報」は、同窓会や大学の状況の周知と会員相互の絆や情報共有等を図るために、各支部支会で有効に配付活動が行われています。

各県支部活動につきましては、総会を行うことは出来ましたが、年間を通した計画的な活動までにはまだ時間が必要です。更に支部の拡大も目指します。

母校福岡教育大学は、九州・沖縄地方における教員養成の拠点大学として、生涯にわたり学び続ける教育者を養成するという基本理念を掲げて、実績を上げています。令和4年3月の卒業生は正規教員就職者数で全国1位、教員就職率でもトップクラスだそうです。大変喜ばしいことです。同窓会としては今後とも母校教育大の取り組みに対し、積極的に支援、協力を進めてまいります。

終わりに、今年は母校の創基150周年の記念の年。学科取調所の創設から今日まで「教育者を育む学校」として歴史を刻んできました。その時々卒業生のそれぞれの経験や深い知恵はこの城山会にも蓄積されています。時には過去も振り返り、当時の先輩同窓会の方々の教育に対する志と実践に学び、引き継ぎ、今後も城山会は若い会員の育ちの支援等、教育の充実に一層資する取り組みを行いたいと思います。これからも同窓の絆を大切に、助け合い・支え合って、一步一步進んでまいりましょう。会員の皆様のご活躍とご多幸を祈念致します。

### 定期総会 報告

令和5年度の第48回定期総会は、4月29日（土）午前11時より八仙閣本店において開催されました。福岡県内各支会、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県の各県支部の総勢124名が参集し、「同窓の絆で、助け合い・支え合って、出来ることから一步前進」の言葉をもとに本年度の重点課題・事業計画について審議しました。議事は第1号議案から第5号議案まで原案通り可決されました。

中止・延期をしておりました「新年の会」につきましては、本年度「城山同窓の集い」という名称で、10月29日（日）筑豊地区・北九州地区が担当し、のがみプレジデントホテルで開催されることとなりました。

# 創基150周年にあたって

## 教員養成を高度化する大学改革

福岡教育大学 学長 飯田 慎司



明治6年(1873年)の学科取調所設置に始まる本学は2023年度に創基150周年を迎えましたが、九州・沖縄地方における教員養成の拠点大学として、生涯にわたり学び続ける有為な教育者を養成するという基本理念のもとで、教員養成の

高度化を期しております。

学部教育に関しては、学修者本位の教育を実現するために令和5年度入学生から適用する学生組織改革、学位プログラムの中で各課程の主専攻に加えて〈選択領域〉を設定して学生の多様性に応じるカリキュラム改革、そして入学者選抜をプログラム単位で実施して学位プログラムの円滑な履修を可能にする入試改革を実施しています。また、正課外活動としても、「学生ボランティア活動認定システム」による、学校や保護者、地域と協働して活動することができる資質・能力の向上を図っております。

教員就職の状況についてご報告しますと、令和4年3月卒業生の正規教員就職者数が362名で全国第1位となりました。教員就職率もトップクラスを維持しております。令和5年3月卒業生もコロナ禍を乗り越えて、正規教員就職者数が366名、臨時的任用を含めた教員就職者数が435名となっており、同程度の水準を維持しています。

なお、令和7年度に予定されている県立特別支援

学校の本学キャンパス内の設置に関しては、福岡県、宗像市及び本学との共同研究体制を整備し、その成果を活用した先導的な特別支援教育を実践することができるよう、引き続き連携の強化を図ります。

教職大学院に関しても、大学改革の一端をご紹介します。以前は修士課程もありましたので、教職大学院で教科教育等を学ぶことは少なかったのですが、修士課程の募集を停止して教職大学院に一本化した令和3年度より、教科教育等のコースを設けて、教員養成の高度化を図っております。今後はさらに、特別支援学校の教員養成の高度化に資するコースを加えた教職大学院の拡充も計画しています。

学部卒業生でも教職大学院修了生でも、教職に就いた後は、各支部・支会を含めて、城山会の皆様には是非ともご支援いただき、本学の基本理念である生涯にわたり学び続ける有為な教育者の養成にお力添えいただきたいと存じます。

この150年間、本学が一貫して取り組んできた教員養成によって、数多くの優秀な人材を輩出して参りました。その事実は、前身の同窓会組織を含めた城山会の皆様のご活躍やご功績が証明していると思います。皆様の母校である本学は、先に述べましたような教員養成の高度化を目指して大学改革を進めておりますので、引き続き、本学へのご理解ご支援をよろしくお願い申し上げます。

また、長年、高校支会より選出されご尽力頂きました井上善隆副会長がご勇退され、会長より感謝状が贈呈されました。

定期総会後には、新型コロナウイルス感染症の流行により、昨年度までの4年間、中止していましたが懇親会を、福岡教育大学学長 飯田慎司様はじめ9名の大学役員の方々を来賓としてお迎えして実施し、参会者一同で交誼を深めることができました。

(幹事長 笠 宏照)



## 令和5年度 夏期研修会報告

◆研修会期日	令和5年8月6日
◆研修会会場	博多サンヒルズホテル
◆参加者人数	総計112名

本年度の夏期研修会実践発表では、最初に「柳川・みやま地区永田統計支会長」は、コロナ禍により活動が停滞した事実を巡って分析し、これからの活動をどのように再生させるかについて詳細な説明をされました。

次に「福岡市西村博之支会長」はコロナ禍に加えて大都市圏ならではの支会活動・運営の難しさに触れ、どのような手立てで活性化させるのかの構想を発表されました。両支会共に城山会全体に関わる「組織問題解決の現状と活性化策についての価値ある提案でした。

講演会は事業部会推薦の初等教育教員養成課程美術選修卒業の「甲斐彩加氏」にお願いすることとなりました。演題は「選択」ということ～大切なのは「選択自体ではなく、その先の紡ぎ方」でした。美術専修であり同時に、小・中・高教諭の「国語の一種免許」を取得し、その上で「親に秘密でアナウンサーを受験し合格」されています。放送関係で何度か転職し、現在は文化放送で活躍中です。

(本部副会長 谷 友雄)

## 第19回 城山同窓の集い

令和5年10月29日(日)、飯塚市の「のがみプレジデントホテル」を会場に、各県、県内各地から約240名の参加を得て「城山同窓の集い」が開催されました。令和2年2月の新年の会以来、コロナ禍での延期を経て、名称も「城山同窓の集い」と改めての開催でした。開会前から、「久しぶり！元気だった？」「今、どうしてるの？」等、再会を懐かしむ声がフロアに溢れていました。

挨拶で太田会長は、「同窓の親睦と絆をしっかりと深め、各支部・支会の再活性化に向けて同窓の輪をさらに広めていこう。」と力強く語られ、今年度は城山会再活性化への新たなスタートであり、特に若手会員の育ちが同窓会の将来にかかる最も重要な課題であると確認されました。

アトラクションでは、筑豊のビートルズとして有名なザ・フライング・エレファントのボーカル&ベース担当である木村康治氏のミニライブがあり、弾き語りでのビートルズの名曲を堪能させていただきました。

窪田睦朗実行委員長の「城山会としての矜持をむねに、絆を深めがんばっていこう。」という力強い発声で始まった懇親会は、会場中が再会をよろこび、絆を確かめる場となりました。

(広報部 部長 横大路 智毅)

## 附属学校の取り組みは今

## 福岡教育大学附属久留米小学校

副校長 後藤 重治

本校は、昭和41年に『主体性を育てる学習過程』(明治図書)を出版して以来、「教材論」と「学習過程論」を軸とした研究活動を進めてきました。学習指導案を審議する研修会では、教材の解釈(内容)が明らかにならないと先に進まないという伝統が今も継承されており、本校ならではの本質を踏まえた授業づくりに生きています。

また、平成24年度から、文部科学省研究開発学校指定を受けて情報活用能力の育成に取り組んだことを機に、ICTを効果的、効率的に用いた学習指導の研究を進展させてきました。その結果、ICTを自分なりに使いこなしながら問題をよりよく解決しようとする子供の姿が見られるようになってきました。それを受けて令和3年度からは、「価値を創造する力」「柔軟に対応する力」「責任を遂行する力」という豊かな次代を切り拓く力を身に付けた子供の育成を目指し、研究を進めているところです。

本年度の研究発表会は、令和6年2月16日、17日に開催し、「ICTを用いた学習としての評価活動」を重視した授業及び研究発表を公開いたしました。城山会の皆様には、是非、今後とも御指導賜りますようお願い申し上げます。

## 福岡教育大学附属久留米中学校

副校長 徳永 裕輔

本校教育目標「日本の近未来を切り拓く人材の育成」のもと、「変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する生徒の育成」を目指して、教育活動に取り組んでいます。

加えて今年度からは研究テーマ「A I時代を切り拓く『人間らしさ』をはぐくむ学習活動」を掲げ、A Iと人間が互いの強みを生かしながら共生していく豊かな感性と柔軟な思考で新たな価値を創出するという新たな研究を進めているところです。

現在の本校の特色ある教育活動を紹介します。

- 学年全員担任制：一般的に固定化された担任業務を学年全員で行い、適宜学級の担任を入れ替えたり、教育相談では担当する職員を生徒・保護者が選択できるようにしたりしています。
- 4期制の導入：4期制とし、生徒は1期3か月での目標設定と評価を行い、絶えずフレッシュな気持ちで学校生活を送ることができるようにしています。
- 勤務時間内の部活動実施：働き方改革や部活動の地域移行を見据え、月曜、水曜、金曜の3日間を5時間授業として、勤務時間内に部活動を終わることができるようにしています。

城山会の皆様におかれましては、今後とも本校へのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 支会・支部の取り組み

### 祈 組織の拡大と活性化

糸島支会 支会長 木村 英樹

ここ数年コロナ禍のために、支会総会を紙上提案としたり、本部への参加を最小限に留めたりと予定を変更しましたが、令和5年度は、太田勝視会長はじめご来賓をお迎えして総会を開催することができました。

城山会糸島支会は、これまで旧鶴陽会と同じ日に総会をして、合同で懇親会を行ってきました。そして、平成30年には鶴陽会と組織が一緒になり活動してきましたが、コロナ禍は大きな痛手となり活動の停滞を余儀なくされました。しかし、この状況下にも青年部組織は一定の成果を見せ、昨年も講師を招聘しての研修会を行いました。今後の糸島支会の青年部の活動には大いに期待を寄せているところです。本年度も11月に研修会を予定しています。



令和5年度 総会・懇親会

一方で、退職されたOBの方や鶴陽会の方との連携という面では、会費や郵送費等の色々な課題を抱えています。今後の活動を通して改めて連携を深めていければと考えています。

糸島支会の一人ひとりが、同窓の縁を広げ深めていくことを心から願うものです。

### 「継続は力なり」

朝倉支会 青年部 青年部長 笠野 貴仁

朝倉支会青年部の設立は、平成30年2月です。牟田拡充初代青年部長のもと、元気とフットワークを大事に40歳までの支会々員が参加し、学級経営や授業づくりの研修会や懇親会等で縦横の絆を育み、実践を共有してきました。

そして本年度、4年ぶりに会員が一堂に会しての定期総会を開催することがで



青年部設立の会の様子

きました。総会後の青年部研修会には多くのベテラ

ン・中堅の先輩方も引き続いて参加し、青年部会員の先生が授業実践を提案し、活発に協議がなされました。設立から本年度までの活動は以下の通りです。

年・月	内容	講師・発表者	参加者数
H30.2	青年部設立の会	青年部会則・組織・活動計画審議	31名
H30.2	設立記念講演(講話)	城山会副会長 矢野俊一氏	31名
H30.5	青年部研修会(講話)	市教委参事 大坪和之氏(城山会)	17名
H31.3	青年部研修会(講話)	杷木小教頭 秋吉孝則氏(城山会)	23名
R元.2	青年部研修会	立石小教諭 松尾圭哉氏	28名
R5.6	青年部研修会	東小田小教諭 清武章彦氏	51名

今後朝倉支会青年部は、「継続は力なり」を大事に、持続可能な社会の創り手を育む活動を重ねていきたいと思っています。

### 宮崎城山会のリスタートを目指して

宮崎県支部 会長 南中道 隆

ちょうど4年前、私が退職の間際に日本中がコロナ禍に見舞われ、退職祝いも再就職場所での歓迎会もすべてなくなりました。宮崎県支部も、1月に県教委の幹部の講演をメインとした研修会を計画しておりましたが、急遽中止を余儀なくされ、それ以降活動が休止しております。

そして、ようやく新型コロナウイルスが5類に移行し、日常が戻りつつある中、本年3月、太田勝視会長に来宮いただき、役員会で活動再開に向けた話を進めました。

4年間のブランクからの再開はなかなか難しいものがあり、かなりのエネルギーを要しました。

まずは名簿のデータの加除修正が必要でしたが、個人情報という高い壁もありました。そのため、宮崎市・都城市・延岡市の学校数の多い3市の校長会に許可をいただき、会員情報を収集しましたが、あくまでも本人の了解がとればということで依頼したため、思ったような成果がありませんでした。なによりこの城山会の必要性を会員の皆さんに理解していただくことの難しさを感じたところです。

しかしながら、先輩たちが立ち上げた宮崎県城山会の火を消すわけにはいきません。細々とではありますが、本年度中に総会までこぎつけたいと強く思っております。

## 青年部の取り組み

### 第7回

### 学生・新卒・若手会員 情報交換会

令和5年3月4日(土)に「学生・新卒・若手会員情報交換会」をオンラインで開催しました。学生を含め、62名の参加があり、他県から参加して下さった卒業生もいらっしゃいました。コロナ禍で始めたオンラインによる情報交換会でしたが、オンラインで実施することで、学生や県外の卒業生も参加しやすくなるといったメリットも感じます。

参加者は10のグループに分かれ、学生からの質問をもとに交流を行いました。参加した学生は1ヶ月後から教員生活がスタートすることもあり、「4月までに何をしていたらよいのか」「教材研究にどのくらいの時間がかかるのか」など、具体的な場面を想定した質問が多く見られました。それらの質問に対し、若手会員が自らの経験を踏まえながら受け答えすることで、不安解消に繋がっていました。

今後も同窓生の絆を広げたり、深めたりするよい機会となる本事業を、より充実させながら継続していきたいと考えています。



オンラインでの会議

### 第1回青年部研修会

令和5年12月2日(土)に福岡教育大学アカデミックホールにて第1回青年部研修会を開催しました。

近年、大量採用が続いており、本学を卒業して採用される人材も増加している反面、大学の講義で学んだ教職イメージや自分の思い描く理想通りにはかずにリタイヤしてしまう若年層も増加しています。そこで、コロナ禍以前に行われていたホームカミングデーの意図も踏まえ、若年教員の学びの場を保証するためにも、若年教員をメインターゲットとした内容の学習会を実施する運びとなりました。

これは、単に学ぶ機会を提供するだけでなく、同じような悩みを抱えている同世代と思いを共有したり、改善策を協議したりすることで、「自分だけではない」「明日からやってみよう」などといった前向きな気持ちを喚起するとともに、同窓意識を高めることにもつながり、本組織の充実にも寄与する事業になると考えます。



当日は、中村学園大学の野上俊一教授をお招きし、「子供のマインドをマネジメント」と題して講義・演習を行いました。教育現場で若年教員が直面している課題をもとに、子供の心理面に着目し、そこに令和の個別最適学びのスタイルがどのようにマッチするのかを学べる内容でした。また、インプットするだけでなく、グループ協議を通して考えを深化・交流する、アウトプットする活動を仕組みました。そこでは、青年部幹事がファシリテートしながら、交流を活発に進めることができました。学習会終了後には、日頃の学級経営や校務分掌、学習指導や研究授業等について、青年部幹事がお悩み相談を受ける時間も設け、和やかな雰囲気での研修会を終えることができました。

<青年部部長 辻 聡一郎>

## 教師をめぐって

### 人とのつながりを大切に

初等教育教員養成課程 3年 川原 百葉



私が教員になって大切にしたいことは、人とのつながり、信頼関係です。

私はこれまで、部活動や学校生活を通して、先輩、後輩や同期の人、先生方、他校の人など、たくさんの人とのつながりがあることや、その大切さを学びました。

例えば部を運営していくためには、たくさんの方の支えや協力が必要で、それらがあることで色々な活動が成り立っています。しかも、信頼関係があつてこそ、支援や協力を得られることを、部活動を客観的に見る立場になったり、教育実習生として学校に行ったりして強く感じました。

つながりや信頼関係を大切にするために私が日頃から意識していることは、目配り・気配りと、ものごと一生懸命に取り組むことです。自分が何事にも一生懸命に取り組むことで、周りからの信頼を得ることができます。また、周りの方たちと協力して

みんなで頑張ること、何かを成し得ることによってさらに信頼が深まります。さらに、視野を広くして、周りをよく見ることで、たくさんの方に気付くようになります。周りの環境や人の変化に気付くことができたり、人の行動、周りの動きも見えてきたりします。そして気付きが増えると、自ら行動に移すことや人とのコミュニケーションにつながり、それに伴って人との関係もさらに増えていきます。

今までの人生で、辛いことや大変なことがたくさんあって、そのたびにたくさんの方に支えられて乗り越えてこれました。これらの経験から、生きる上で、周りの方とのつながりや信頼関係を大切にすることの重要性を実感しました。

教員になってもこの気持ちを忘れずに、子どもたちにも、人とのつながりや信頼の大切さを伝えられるような教師になりたいです。

# わたしの教育実践

「みんなが楽しいと思える学校」にするために 直方市立直方第一中学校 校長 大塚 泰信 H3卒



直方一中は、彦山川が遠賀川へと注ぐ、自然豊かな地域にある学校です。全校生徒232名、学級数は9です。本校の校区には、下境小、福地小、中泉小があり、9年間の共通教育目標として、「目標に向かって意欲的に学び 心豊かでたくましく生き抜く子どもの育成」と決め、小中一貫した教育活動を行っています。

令和4年度、校長として赴任した時、生徒と教職員に私の理想とする学校を示しました。「みんなが楽しいと思える学校」です。みんなが楽しいと思えるために、個人に何ができるかを考えてほしいという思いからでした。本校の子どもたちの特徴は、人懐っこく、素直な良さがあり、純粋です。そこで、理想とする学校をつくるために、学校行事、生徒会活動を中心とした人間関係づくりの工夫を行いました。

学校行事は、実行委員会制をとり、リーダーによる計画、実践を行うとともに、上級生から下級生につなげるための時間を設定し、教師は見守りに徹底しました。また、生徒会活動では、生徒総会において、執行部を指導する教員はファシリテーターに徹

して、それ以外の教員は生徒総会に介入しないようにしました。その結果、生徒会活動の計画を真剣に協議するようになりました。また、校則や施設等への要望は、生徒総会で協議するのではなく、各学級から出されたものを、生徒会執行部で吟味し、生徒会長から「要望書」として提出する仕組みとしました。生徒で検討するので、都合のよい要望になると想像するかもしれませんが、とても合理的で、自分の学校を守ろうとするものばかりでした。

このように、生徒の主体性を尊重する取組を進めてきたことで、本年度、生徒会執行部が初めて提案した「全校レクリエーション」を実施することができました。終わった後、多くの生徒から、「楽しかった」という感想を聞くことができました。

生徒と教職員のおかげで、「みんなが楽しいと思える学校」に近づいていると実感することができています。



「全校レクリエーション」(オリエンテーション)

## 未来へ繋がる教育を



新規採用教員として任用されて3年目になります。

私は、初任の時から大川市立川口小学校に勤務し、昨年度までは2年生と6年生を担当し、今年度も6年生を受け持っています。川口小学校の子どもたちは、素直で元気な子が多く、毎日楽しい日々を送らせていただいています。

「未来へ繋がる教育をしたい」という教育観を持った教師になる。そう考えたきっかけは、自分自身の経験からでした。

私は、福岡教育大学附属久留米小学校、中学校を卒業し、長崎日本大学高等学校へ進学した後に、福岡教育大学、そして大学院を修了しました。学力重視の小中学校と部活動を重視した高校での学校生活を経験する中で、社会の一員になるには、人間性の面で向上することが最も大切だと考えるようになりました。

私は、社会人として必要な能力が5つあると考えています。それは、発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性です。これらは、全て学校生活に関わりがあります。自分の考えを伝える発信力。友達の意見を心で聴く傾聴力。日々変化のある学校生活

大川市立川口小学校 教諭 佐々木 勇哉 H30卒

で必要な柔軟性。今自分のやるべきことは何か判断する状況把握力。そして名札着用や制服の決まりなど、ルールを守る規律性です。

小学生という段階で、これらの能力を伸ばすために必要なのが、本校の重点目標でもある「自分の考えを様々な場面で書くこと」や「子どもが主体となる話し合い活動」などだと思います。子どもたちが、自分の意見を持つために必要な支援を行い、発言しやすい学級の雰囲気をつくる。このような基本的なことを継続的に行っていくことが、これから中学校、高校と進んでいく子どもたちの力になるのではないかと考え、日々実践を行っています。

また、授業の中でICTの活用を積極的に取り入れ、タブレットの操作技術も向上させることで、将来のAI社会にも対応することができると考えています。

これからも、様々な視点を持って教育実践を行い、未来へ繋がる教育をできるように頑張っていきたいと思っています。



本校の話し合い活動



## 大学時代の思い出



### 学生時代にしかできない経験を！

三瀧支会

中学校課程理科 S58卒 福浦 徹

福教大を卒業し早40数年。教職を終えた今も色あせない学生時代の思い出がいくつもある。

1つ目は、仲間との絆である。中でも4畳半下宿の住人はまるで大家族の兄弟のようだった。クリスマスには自然に集まるも、1部屋では収まりきれず、各部屋のこたつを下宿の廊下に並べ、酒やつまみを持ち寄った。「来る者は拒まず」で住人とその友人、彼女と参加者は増え続け、十数人でイブを祝った。

2つ目は、様々なアルバイト経験である。家庭教師、建設作業員（理科教棟東側をつくったのは私です。）、赤間駅前バーのチーフ等々。21時から6時までレストランに勤めた時は、あまり年も変わらない調理師に将来自分の店を持つ夢を聞かせてもらった。

どれもこれも教職に就いてからはできない経験である。学生の皆さんには今だからこそできることにチャレンジし、短い学生生活を謳歌してほしい。

### たくさんの出会いに感謝！

山田支会

小学校課程社会科 S60卒 古賀 修治

たくさんの出会いに感謝！入学当初、下宿の窓に差す夕陽を見て過ごすうちに、「何かしないと。やっぱり硬球を扱いたい！」と思って、硬式野球部の門を叩きました。

当時の硬式野球部は、初心者先輩も多く、とても優しく迎えてもらいました。それから4年の秋まで、なんだかんだと野球を楽しませていただきました。この野球部の入部をきっかけに、小社や下宿の友達から硬式野球部、そして他の部の先輩や同級生、後輩へと人間関係が広がり、社会人の基礎となる多くのことを学ばせていただきました。

本年度、定年退職をしましたが、この大学時代の強いつながりに何度も助けられ、励ましてもらいました。

入部時に、先輩から「他の部に挨拶は負けるな！」と言われ、野球は下手でも、自分にできることをしっかり行った成果だと思っています。大学4年間で出会った「ひと」はお金で買えない財産です。

### 怪我の功名

浮羽支会

小学校課程保健体育科 S59卒 柳瀬浩三

大学では体が資本(?)の体育科&サッカー部に所属していましたが、怪我に泣かされた4年間でした。

1年生の時、練習中に先輩と激突して膝を痛め、無理をして悪化。病院通いが続き、十分に練習できず歯痒い日々を過ごしました。しかし、少しでもみんなの役に立てればと主務的な役割を務め、さらに、県大学サッカー連盟の幹事長もさせていただきました。お陰で俯瞰的なものの見方、調整する力などを学びました。

4年生になって公式戦に出る機会があり、今度はアキレス腱断裂。採用試験2週間前でした。術後の痛みを耐えながら病院のベッドで集中して(?)試験勉強に取り組み、採用試験は無事に合格。「怪我のお陰で合格!？」何が幸いするかわかりません。

大学で恩師や多くの仲間と出会い、皆さんに支えてもらいながら、マイナス面をプラスに面に変え、多くを学ぶことができました。ありがとうございました。

### 「学ぶ」ことに真剣に向き合えた4年間

田川郡支会

中学校課程理科 H6卒 高野 秀樹

福岡教育大学でたいへん貴重な経験をしました。理科は好きな教科でしたが、高校生の頃は成績が伸び悩んでいました。大学での勉強が不安でしたが、理科の本質を学び、人生で初めて「理科を学ぶ」ことに面白さを感じました。

自然の摂理を数式で表現できることで、それまで苦労しながら学んだことが腑に落ちることがたくさんあり、もっと学びたいと思うような日々でした。教職専門の大学でありながら、専門的な科学に触れることができ幸せでした。

学友と夜通し「宇宙は拡大しているのか、縮小しているのか。」と論じ合ったり、研究室に泊まり込み実験のデータをとったりした時間は貴重な経験で有意義でした。

大学での学びは、想像以上のもので、福岡教育大学にはとても感謝しています。多くの若者に「学ぶことの楽しさ」「学ぶことの素晴らしさ」を実感して欲しいと思います。

# 第二の人生を生き生きと

## 「執筆をライフワークに」

久留米支会 S47卒 上野 幹久

「当時は1クラスの人数が80人だったよ。」戦前・戦中、日本が統治していた朝鮮で小学校教師をしていた母の一言に、学校や日本の歴史を活字として残すことの意義を感じ、著書発刊を思い立った。その時、私は60代半ば、母はすでに96歳。時間的猶予はない。母の体験談や祖父(母方)の日記をもとに『木槿の国の学校』(梓書院)の書名で上梓。本の帯に作家の門田隆将氏の推薦文を頂いたこともあり、アマゾンの売れ筋ランキング(昭和・平成部門)で全国1位となった。多くの大学が図書館に置いたことから大学の先生との交流も生まれた。

続けて私版本として、定年後の旅を国内編・海外編で編集した『俳句紀行塩辛とんぼの旅日記』。古希の記念としてこれまでの人生の中で出会った先人や先輩など50人を選び、その人物のすばらしさをまとめた『この命にありがとう』。コロナ下の2020年には、日記がわりの1年間のコラム集『祖国への遺言～塩辛とんぼの残日録～』が完成。家に籠りがちな時期、時間の有効活用となった。

この年、偶然書庫で祖父(父方)が校長時代に当

時日本の領土だった樺太や台湾を視察した時の旅日記が見つかった。当時の日本の活気や人々の優しさが溢れていた。旧漢字、旧仮名、癖のある文字を読み解く作業は簡単ではなかったが、2022年に『日本統治時代ある校長の樺太・台湾旅日記～祖父の記録から読み解く「領土」と先人の努力～』(梓書院)を上梓。全国紙が紙面の半分を使って内容を詳しく掲載したことから反響があり、八重洲ブックセンター本店に並ぶことになった。歴史資料として、現在国立国会図書館に所蔵。

悠々自適ともいえる隠居の身だが、己に事業を課すことによって残りの人生も深まっていくように思う。次の刊行は、ペンネーム「塩辛とんぼ」を冠した『俳句紀行・塩辛とんぼのおくのはそ道』。愉しみながら芭蕉に迫っていきたい。



定年後の出版物

## 行きつ戻りつ…そして新たな自分を

北九州市支会 S61卒 倉成(阿武) 祥子

1つのことが最後まで全うできない性分なのか、目移りばかりの人生。中学生の頃から決めていた進路である教職について、わずか11年で退職してしまい、同じく転職組の夫の学習塾を手伝う傍ら、ピアノ講師を数年。そして現在はドッグカフェのママとして毎日忙しくしている。

教員からピアノ講師、塾講師というのは、大きな路線変更ではないが、なぜ飲食店、しかも18年前、当時珍しかったドッグカフェをしようと思ったのか。それは、生まれて初めて人間以外の生き物と暮らした日々が、経験したことのないような命への愛しさを教えてくれたからだと思う。

名前は太郎、40キロもある大型のラブラドルとの生活。はじめての子犬との生活は、体も心も傷だらけ、くたくたな毎日だった。

しかし日が経つうちに、お互いのことがわかり、生活のルールも言葉さえも通じるようになった幸せで温かい日々。ずっと続くとのかんきに思っていたその時間は、太郎の突然の、しかも余命わずかという病で絶たれることになった。

すべての仕事をキャンセルして、太郎の看病に専念した。自分の一部をなくしてしまうような喪失感

と、大事な命に寄り添う事に専念できる幸せを同時に感じる不思議な日々を過ごす中、不意に「先生と呼ばれる仕事はもう終わりにしよう。犬と関われる仕事をしよう。犬の事なんかでいつまで泣いてるの? って言われない場所を作ろう」と第2、いや第3の人生とも言えるドッグカフェをやろうと決意した。

その後、55歳になって大手楽器店の試験に挑戦し、現在は直方市でTARO&HANA というドッグカフェの経営と並行して、ピアノとボーカルの講師をしている。これにも大きな理由があるのだが、今日は割愛しよう。

第2、第3、そしてまた第2。行きつ戻りつのようなだが、全く同じ日というのは二度とない。昨日はもうない、明日はまだない。そういう気持ちで、これからも新しい一歩を踏み出せる人生を送っていききたい。



私の一番大切なもの

# 本学学生の公立学校教員採用試験合格状況について

福岡教育大学 キャリア支援センター

令和 6 年度（令和 5 年度実施）の教員採用試験の出願及び合格状況は、〔表 1〕のとおりです。出願者数は昨年度よりも増加し、入学時から 4 年次までの高い教員志望度を反映して、前年度よりも多くの合格者を出すことができました。教員採用試験に向けた日々の努力が実を結び、高い合格率を維持しています。

また、自治体別の合格者の内訳は〔表 2〕のとおりです。昨年度と比較すると、長崎県・大分県・福岡市が増加し、九州・沖縄地区全体での合格者数は昨年度を上回りました。

〔表 1〕 公立学校教員採用試験の校種別合格状況

令和 5 年 11 月 6 日現在

実施年度	小学校				中学校				高等学校				特別支援学校				その他			合計					
	出願者数	一次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	一次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	一次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	一次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	一次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	一次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	合格実人数
R5	398	372	304	76.4	116	101	83	71.6	59	36	21	35.6	66	61	45	68.2	1	1	1	100	640	571	454	70.9	425
R4	397	371	321	80.9	115	101	71	61.7	67	34	16	23.9	36	33	30	83.3	—	—	—	—	615	539	438	71.2	407
R3	392	373	316	80.6	133	111	77	57.9	68	41	15	22.1	53	51	36	67.9	—	—	—	—	646	576	444	68.7	408

- ※ 1 出願者数、一次合格者数及び最終合格者数は、延べ人数
- ※ 2 令和 5 年度は、令和 5 年 11 月 6 日現在の暫定値
- ※ 3 各数値は、教育学部 4 年生、大学院生、教職大学院生及び特別専攻科生の状況

〔表 2〕 公立学校教員採用試験の自治体別合格状況

令和 5 年 11 月 6 日現在

実施年度	九州・沖縄											小計 (九州・沖縄)
	福岡県	北九州市	福岡市	佐賀県	長崎県	熊本県	熊本市	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	
R5	149	47	117	12	21	11	8	13	8	14	4	404
R4	161	46	111	11	11	8	13	5	5	16	4	391
R3	153	53	74	10	18	18	6	7	12	17	5	373

実施年度	山口県	広島県・市	岡山県・市	島根県	香川県	愛媛県	高知県	神戸市	愛知県	横浜市	その他	合計(全国)
R5	7	17	4	2	1	0	0	0	3	2	14	454
R4	9	20	4	0	2	3	1	0	4	1	3	438
R3	11	17	4	4	1	12	1	2	0	3	16	444

- ※ 1 数値は、自治体ごとの最終合格者数（延べ人数）
- ※ 2 令和 5 年度は、令和 5 年 11 月 6 日現在の暫定値
- ※ 3 各数値は、教育学部生 4 年生、大学院生、教職大学院生及び特別専攻科生の状況

令和5年度 役員等の名簿

◆本部

Table of department members including roles like 会長, 副会長, and 幹事, with names and locations.

◆会計監査

Table of accounting and audit members with names and locations.

◆幹事 ◎: 部長 ○: 副部長

Table of executive officers categorized by department (組織部, 事業部, 広報部).

◆城山会顧問

Table of advisory members for the City Mountain Association.

Table of members categorized by gender (女性部, 青年部) and location.

◆支会・支部長

Table of branch and sub-branch leaders across various regions like 福岡市, 北九州市, etc.

◆大学支援委員会

Table of the University Support Committee members.

事業実績

4月

- 4日(火) 大学入学式
11日(火) 会計監査会
16日(日) 第1回役員会
29日(土) 第48回定期総会

5月

- 14日(日) 第1回幹事会・支会幹事長会

6月

- 1日(木) 大学記念日
3日(土) 筑豊地区拡大支会長会
10日(土) 宗像支会総会
17日(土) 北九州市支会・田川郡支会総会
24日(土) 直方支会・朝倉支会・久留米支会
三潞支会・遠賀支会総会
青年部オンライン幹事会

7月

- 30日(金) 大学支会総会
1日(土) 山口県支部・八女支会・鞍手支会総会
4日(火) 大川支会総会
8日(土) 田川市支会総会
9日(日) 福岡市支会総会、広報部幹事会
23日(日) 第2回役員会、幹事会(組織・事業・女性・青年部)
24日(月) 浮羽支会総会、未来奨学金授与式
29日(土) 小郡三井支会総会
30日(日) 飯塚支会総会

8月

- 5日(土) 柳川みやま支会総会
6日(日) 夏期研修会
19日(土) 大分県支部・県立学校高校支会総会
青年部長会
25日(金) 中間支会総会、筑紫支会研修会
26日(土) 熊本県支部総会

9月

- 1日(金) 糸島支会総会
2日(土) 糟屋支会総会
19日(火) 大学卒業式・修了式
21日(木) 城山同窓の集い実行委員会
24日(日) 青年部オンライン幹事会
30日(土) 南筑後地区拡大支会長会

10月

- 14日(土) 第3回役員会、幹事会(事業部)
北九州地区拡大支会長会
29日(日) 城山同窓の集い

11月

- 11日(土) 福岡地区拡大支会長会
京築同窓のつどい(京築地区拡大支会長会)
12日(日) 福岡市ブロック交流会
広報部幹事会
18日(土) 北筑後地区拡大支会長会
筑豊地区拡大支会長会
24日(金) 直方支会研修会
25日(土) 佐賀県支部総会

12月

- 2日(土) 女性部幹事会
青年部主催学習会
3日(日) 大学支援委員会

1月

- 13日(土) 宗像支会 新年若手会員激励の会
21日(日) 第4回役員会
27日(土) 長崎県支部新春の集い
28日(日) 顧問会

2月

- 3日(土) 支会長会
9日(金) 朝倉支会 青年部研修会
17日(土) 嘉飯山(嘉徳・飯塚・山田)支会総会
久留米支会 教育講演会
24日(土) 2月のつどい
29日(木) 浮羽支会研修会

3月

- 2日(土) 学生・新卒・若手会員情報交換会
25日(月) 大学卒業式・修了式



城山文藝



絵画



「正月飾り」油絵  
平成3年卒 有働 功一  
(八女支会)

「アナログへの郷愁」  
油絵

昭和47年卒 石橋 清市  
(柳川みやま支会)

俳句

昭和50年卒 吉山 峰代  
(糸島支会)

幼子のおしゃべり楽ししやぼん玉  
履冊に平和と書きし星祭り  
夕暮れの顔を撫でゆく秋の風

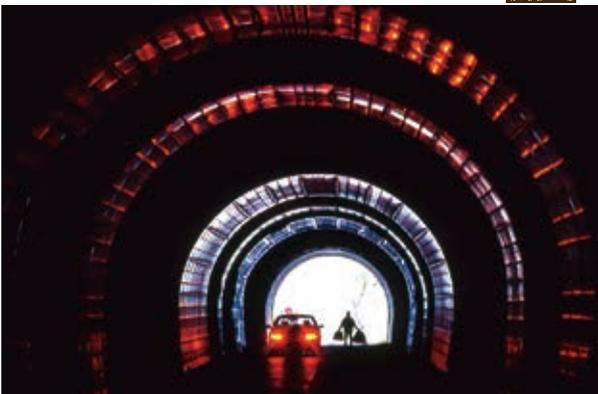
川柳

昭和58年卒 野片 博之  
(柳川みやま支会)

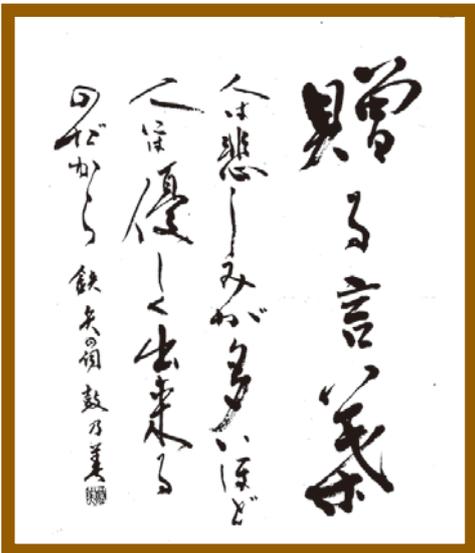
少子化と過疎化の先に一極化  
句碑ひとつ詩人の旅は野に朽ちる  
坂道を松ぼっくりが追ってくる

書

「贈る言葉」



「トンネル」  
昭和62年卒 友野 美保子  
(大川支会)



平成5年卒 山根 鼓乃美  
(北九州市支会)

編集後記

まづもって城山会会報五十四号を発行できますことをありがたく思います。広報部員や担当役員の方々、そして原稿や作品を提供いただきました皆様から感謝いたします。今回は、若手会員の育成の重要性から、城山会青年部の新たな取り組みや支会青年部の活動も紹介させていただきますました。様々な困難を乗り越え、各支部・支会も活動の再活性化に向けて歩みを進めています。今後、同窓の絆をさらに深める会報誌作りに取り組んで参りたいと思います。  
(横大路 智毅)